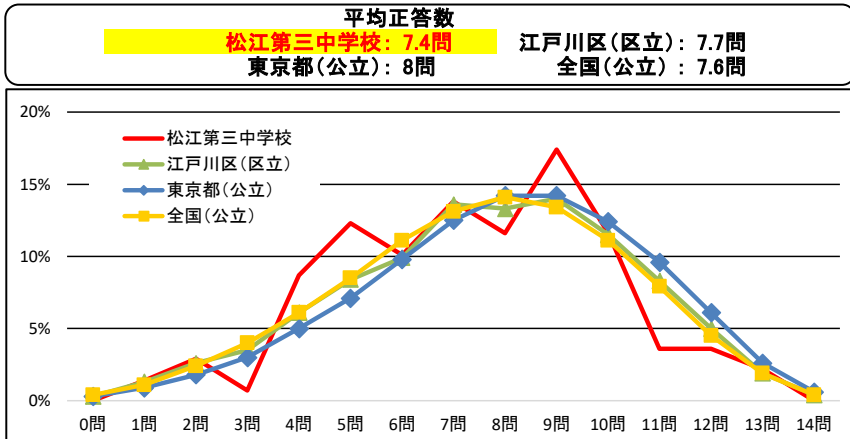


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 松江第三中学校

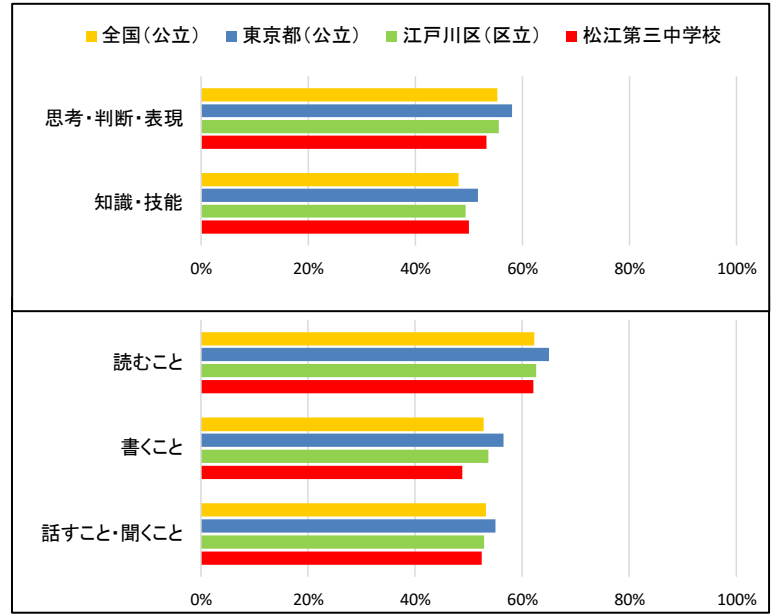
正答数分布



【平均正答率の差】

松江第三中学校	53%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-4.0

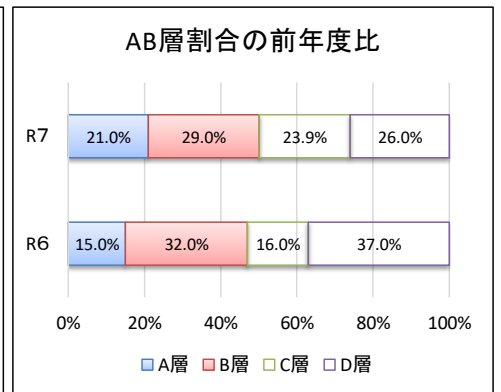
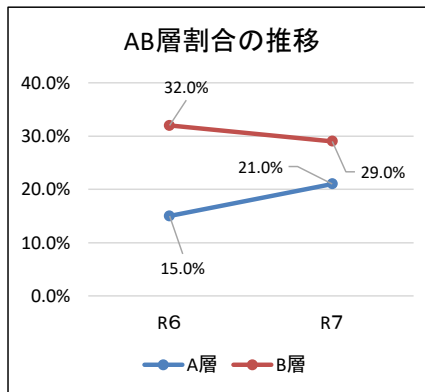
「領域別」の結果



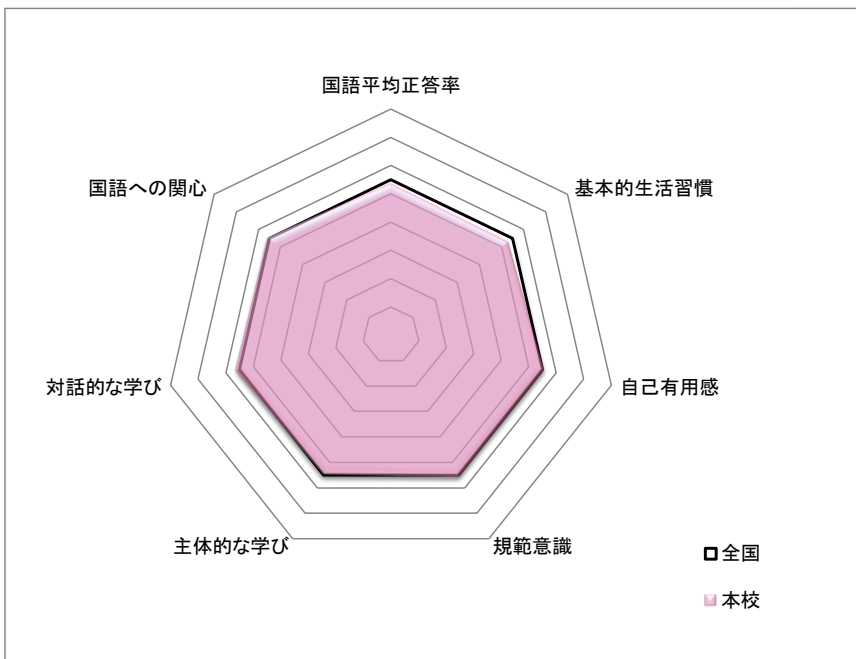
四分位における割合 (都全体の四分位による)

国語	上位 ← 下位			
	A層 10~14問	B層 8~9問	C層 6~7問	D層 0~5問
松江第三中学校	21.0%	29.0%	23.9%	26.0%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

・基本的な生活習慣、自己有用感、規範意識についてはほぼ全国平均と変わらない結果だった。数学への関心や平均正答率については、全国平均をやや下回る結果となっている。

《家庭・地域への働きかけ》

・基本的な生活習慣については、家庭での指導が行き届いており、全体的に問題のある状況ではない。生徒が元気に登校できるよう、今後も規則正しい生活習慣を身に付けさせていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

・AB層の割合は、前年度(令和6年度)よりも増加した。同時に、CD層は、前年度よりも大幅に減少する結果となった。
 ・改善した要因の一つは、授業規律の徹底を図ったことである。学習に集中できる環境を整えたこととともに、クラスに互いを尊重し合う風土が根付いたことで、活発な意見交流が生まれるようになり、充実した学習指導を展開することができるようになった。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

・指導と評価の一体化を進めるため、①授業開始時点での学習目標(めあて)を明示すること、②学習目標の達成状況を生徒自身が振り返る時間(5分間)を確保することの2つを重点課題として研修を行ってきた。今後も継続していく。
 ・校内研究授業を年間3回実施し、上記の重点課題について授業者と参観者で意見交流を行う。また、外部の講師をお呼びし、授業を見ていただいた上で、授業改善に向けた指導と助言を頂き、全教員の指導力向上を図っていく。

・基礎学力の保障

・漢字等、国語に関する知識・技能の確実な習得を図るため、小テストを定期的に実施する。
 ・教えて考えさせる授業を基本として、1時間の学習指導を構成する。その上で、ペアワークやグループワークを通じて意見を交流する機会を設け、生徒同士が主体的に学び合う風土を醸成する。

・学習習慣の確立

・漢字等、国語に関する知識・技能の確実な習得を図るため、小テストを定期的に実施し、計画的に学習に取り組むよう指導する。
 ・「江戸川っ子Study Week!」において、ミライシード(ICT)を利用して国語に関する知識・技能の定着を図る学習に取り組ませる。

・AB層の育成

・既存の知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力等の育成を図るため、単元を貫く言語活動を必ず設定する。また、主体的・対話的で深い学びを実現するため、ペアワークやグループワークなどの交流活動を授業内に設定する。AB層の生徒が獲得した知識や技能を確実に自分のものにできるようにするため、学び合いや教え合いを意識した意見交流の場を授業内に設定する。